りそなグループ

りそな経済フラッシュ

2025 年 12 月 15 日
半導体，米国株

りそなホールディングス 市場企画部
ストラテジスト 武居 大暉

日米欧 Market View：12 月半導体市場及びハイテク株動向

半導体市場は AI 向けが牽引し拡大。ナスダック 100 は上昇余地大だが、センチメント悪化が重荷

要約

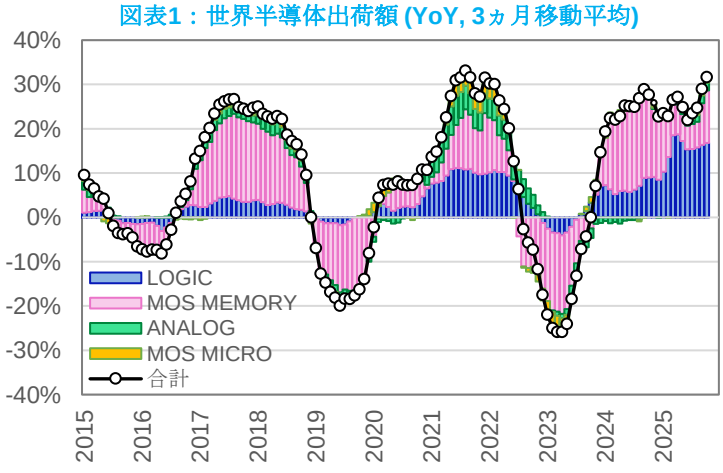
- WSTS によると、10 月の世界半導体出荷額(振れが大きいため 3ヵ月移動平均値)は、前年比+31.6%(前月：+28.9%)と前月から加速し、引き続き高水準(図表 1)。AI への注目が集まる中、その恩恵を受けやすい LOGIC や MEMORY が市場の成長をけん引
- ナスダック 100 は、予想 EPS は改善を続けているが、高値警戒感からバリュエーションが縮小している。ファンダメンタルズは底堅いため、下値は限定的とみるが、悲観と楽観が交錯し、レンジ相場を形成しよう
- 今後一ヵ月程度の妥当レンジは、24,000pt～26,500pt 程度

10 月の半導体市場動向：引き続き AI 向け需要が旺盛

WSTS(世界半導体市場統計)によると、10 月の世界半導体出荷額(振れが大きいため 3ヵ月移動平均値)は、前年比+31.6%(前月：+28.9%)と前月から加速し、引き続き高水準(図表 1)。ベースラインが高くなる中、成長率が高水準を維持していることは、AI ブームが持続していることを示唆している。実際、計算処理に用いられ、生成 AI のトレーニングに必須の LOGIC は前年比+42.2%(前月+41.8%)、データの保存に用いられ、計算スピードの効率性を決定づける MEMORY は前年比+38.2%(前月+29.4%)であった。

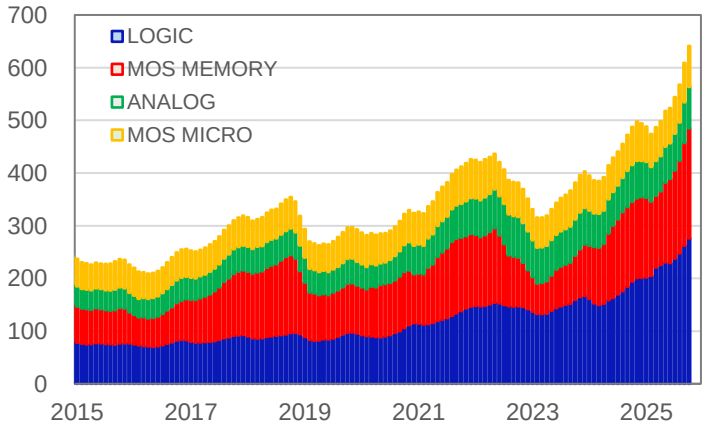
今後を展望すると、米ハイパースケーラーの投資が継続する限り、先端半導体が半導体市場全体を牽引するとみている。直近決算では、各社の AI 投資への積極姿勢が確認された。ただし、以前は営業 CF を投資に回していたが、社債を発行する企業も散見され、一部では AI バブルではないかとの懸念も生じている点には留意。筆者は楽観的見通しを持っているが、中期的にはこうした懸念が社債利回りの上昇を招き、AI 投資が減速することを危惧している。

図表1：世界半導体出荷額 (YoY, 3ヵ月移動平均)



出所：WSTS

(億ドル) 図表2：世界半導体出荷額の推移 (3ヵ月移動平均) (億ドル)



出所：WSTS

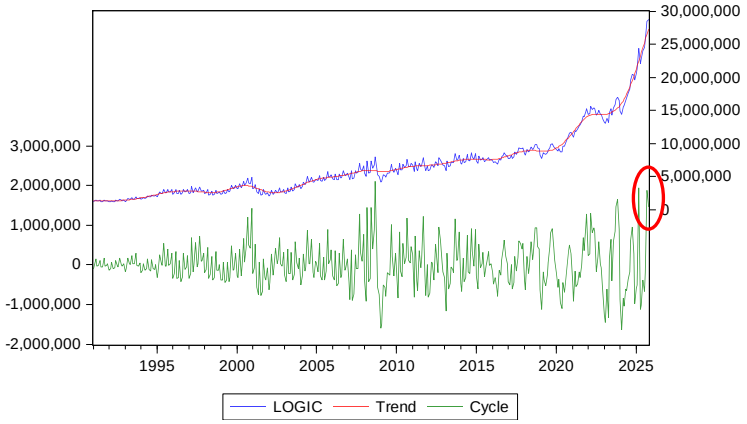
◎注意事項 お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

AI 関連半導体の動向：LOGIC、MEMORY 共にトレンドは上向き

図表 3～4 は、LOGIC と MEMORY の出荷額を HP フィルター(系列の長期トレンド成分の滑らかな推定値を得るために広く使用されている平滑化手法)を用いてトレンド分析したものである。短期的なトレンドを意味する Cycle について、LOGIC と MEMORY はいずれも前月から改善を継続し、過去最高水準である。

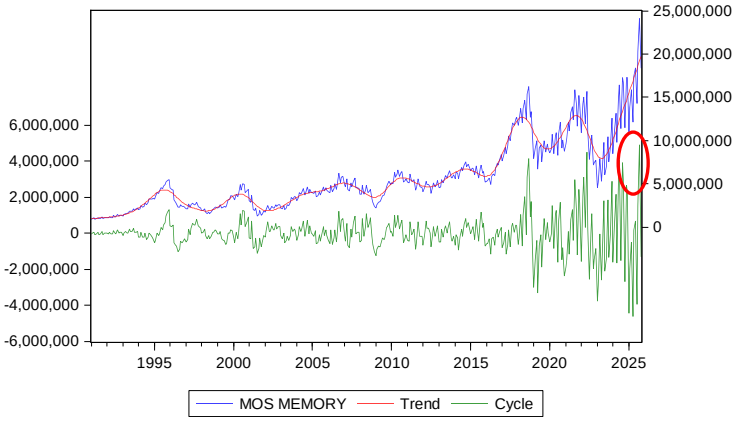
なお、従来は計算処理を担う LOGIC がボトルネックとみられてきたが、足元で MEMORY の重要性が増している点は付言しておきたい。LOGIC の重要性は揺らいでいないが、AI トレーニングにおけるモデルサイズの巨大化によって、GPU あたりのメモリ消費量が著しく増加している。エヌビディアの資料によれば、旧製品に比べて最新の製品ではメモリ消費量が 3.6 倍にまで増加していることが示されている(図表 5)。MEMORY の出荷額は、その需給によって大きく増減する傾向にあったが、AI ブームを背景に底堅い伸びが期待できよう。

図表 3：Logic の出荷額トレンド
Hodrick-Prescott Filter (lambda=14400)



注：Cycle は左軸
出所：WSTS

図表 4：Memory の出荷額トレンド
Hodrick-Prescott Filter (lambda=14400)



注：Cycle は左軸
出所：WSTS

図表 5：エヌビディアの製品別 MEMORY 半導体使用量

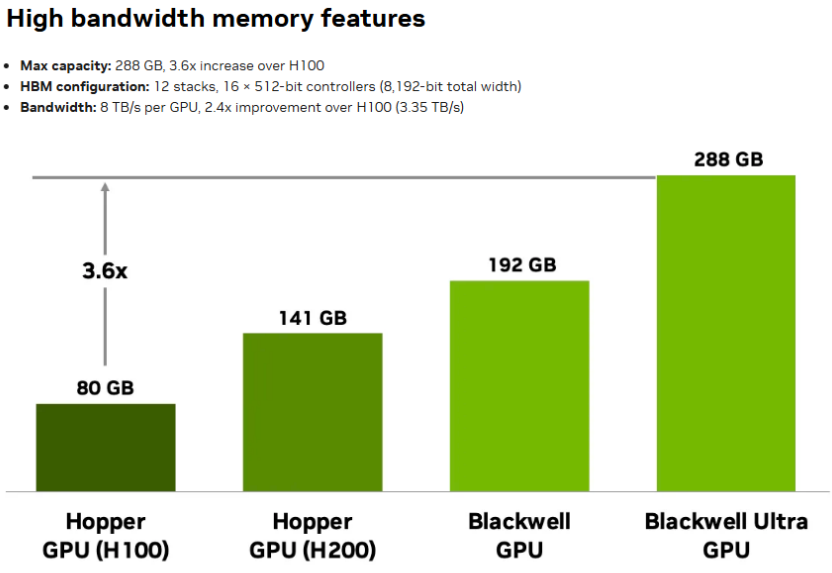


Figure 5. HBM capacity scaling across GPU generations

出所：エヌビディアの会社資料

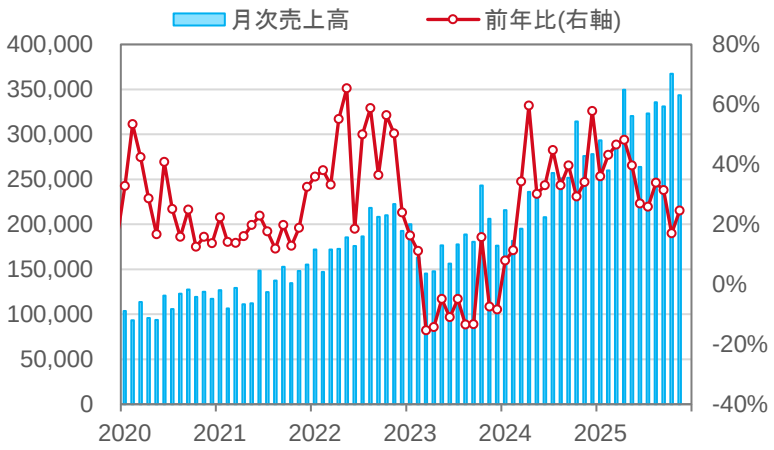
◎注意事項　お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

主要企業の動向:TSMC は単月での過去最高を更新中

台湾の半導体受託生産大手 TSMC は、11 月単月での売上高は過去最高を更新した(図表 5)。また、前年比は+24.5%と引き続き高水準。成長率がやや鈍化傾向であるが、ベース効果によるところが大きく、AI ブームの陰りを示唆するものではない。TSMC の売上高のうち、22%程度がアップル、13%程度がエヌビディア、4%程度がブロードコムやアマゾンであること(図表 6)、アップルは中国を中心に業績不振に苦しんでいること等を考慮すると、TSMC の売上高が堅調なのは、AI 関連の先端半導体需要が旺盛であることを示唆していよう。実際、主要顧客であるハイパースケーラー(アマゾン、メタ、アルファベット、マイクロソフト)は、巨額の営業 CF の大半を投資に回している。

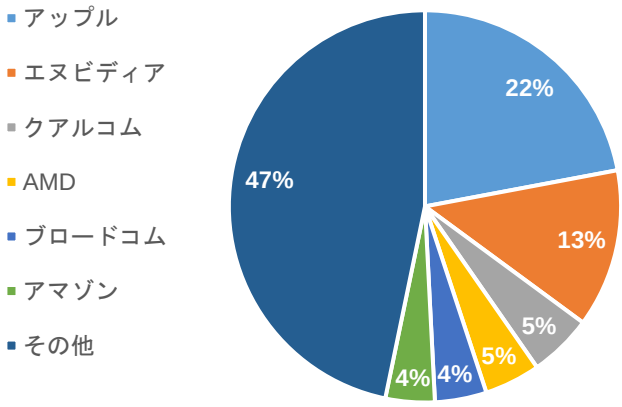
なお、同社は取引のほとんどをドル建てで行っている点に留意したい。4 月の関税ショック以降、USDTWD は 5%程度ドル安が進行している。TSMC の売上高から推計される米ハイテク各社の業績には上振れ余地があるだろう。

図表6：TSMCの月次売上高



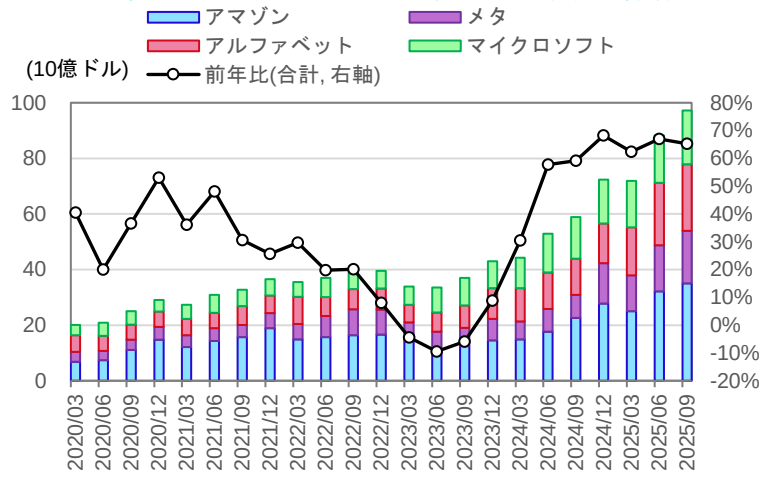
出所：Bloomberg

図表7：TSMCの顧客別売上高構成比



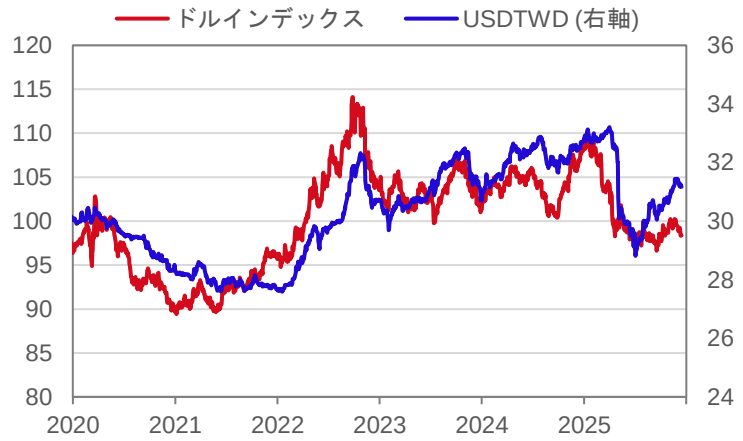
出所：Bloomberg

図表8：ハイパースケーラーの有形・無形資産取得額



出所：Bloomberg

図表9：USDTWDの推移



出所：Bloomberg

◎注意事項　お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

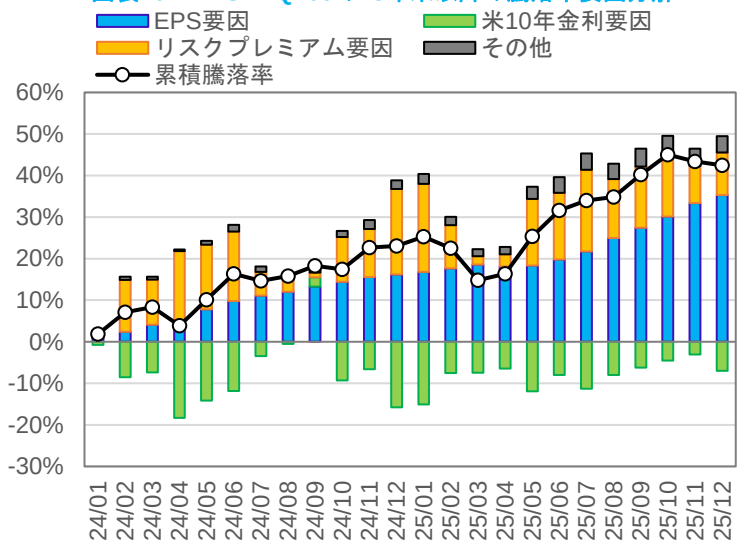
ハイテク株(ナスダック 100)のバリュエーションと短期見通し：大型株中心に上昇余地あり

図表 10 は、ナスダック 100 の 23 年末以降の株価騰落要因分解である。ナスダック 100 は、11 月に入ってから、主要ハイテク株を中心に AI バブル懸念等からやや調整色を強めているが、予想 EPS は改善を続けているため、PER が切り下がっている。結果として、メガテックの PEG レシオ低下が相対的に顕著である(図表 11)。

筆者は AI バブルを巡る懸念は杞憂であると考えているが(補足参照)、弱気派の懸念する過剰投資問題等は短期的に懸念が払拭される様な性質の問題ではない。このため、ハイテク株は AI バブル懸念による調整と楽観的見方を背景とする上昇を繰り返すとみている。もっとも、後述する様に AI 半導体を中心に半導体市場の先行きは明るく、予想 EPS は改善を続ける公算が大きい。従って、株価調整局面は押し目買いの好機とみる。

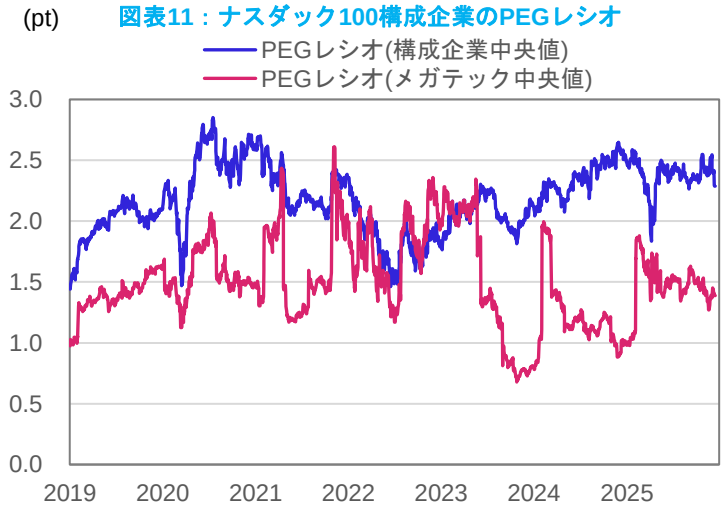
ナスダック 100 の今後 1 ヵ月程度の想定レンジは 24,000pt～26,500pt。ファンダメンタルズは底堅いため、下値も限定的だが、悲観と楽観が交錯してレンジ相場になるとみている。

図表10：NASDAQ100の23年末以降の騰落率要因分解



出所：Bloomberg

図表11：ナスダック100構成企業のPEGレシオ



注 1：PEG レシオ＝PER÷長期利益成長率
注 2：メガテックは、エヌビディア＋ハイパースケーラー(アマゾン、アルファベット、メタ、マイクロソフト)
出所：Bloomberg

図表 11：ナスダック 100 のバリュエーション

			予想PER						
			24.5倍	25.0倍	25.5倍	現状 26.0倍	26.5倍	27.0倍	27.5倍
予想EPS	10.0%	1067.9	26,164	26,698	27,232	27,716	28,300	28,834	29,368
	5.0%	1019.4	24,975	25,485	25,994	26,457	27,014	27,523	28,033
	3.0%	1000.0	24,499	24,999	25,499	25,953	26,499	26,999	27,499
	1.0%	980.5	24,023	24,514	25,004	25,449	25,985	26,475	26,965
	現状	970.8	23,786	24,271	24,756	25,197	25,727	26,213	26,698
	-1.0%	961.1	23,548	24,028	24,509	24,945	25,470	25,951	26,431
	-3.0%	941.7	23,072	23,543	24,014	24,441	24,955	25,426	25,897
	-5.0%	922.3	22,596	23,057	23,519	23,937	24,441	24,902	25,363
	-10.0%	873.8	21,407	21,844	22,281	22,677	23,155	23,591	24,028

出所：Bloomberg

◎注意事項　お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

図表 12：主要ハイテク企業のバリュエーション

区分	企業名	前月比	前年比	PBR	PER	ROE	主な事業・特徴
①製造装置（前工程）	ASMLホールディングス	6.0%	55.3%	15.1	35.1	42.9%	EUV露光装置で独占的地位
	アプライド・マテリアルズ	13.3%	58.4%	8.8	26.3	33.6%	成膜・エッチング装置世界最大手
	ラムリサーチ	8.9%	122.5%	15.0	30.8	48.8%	エッチング・成膜装置
	東京エレクトロン	-5.4%	30.2%	6.5	26.3	24.6%	前工程装置国内最大手
	KLA	5.3%	88.4%	23.7	30.8	77.0%	検査・計測装置世界首位
	SCREENホールディングス	2.7%	39.0%	2.4	13.3	18.4%	洗浄装置などで高シェア
	レーザーテック	8.4%	104.7%	10.6	37.2	28.4%	EUVマスク検査で独占的地位
②製造装置（後工程・パッケージング・テスト）	アドバンテスト	3.9%	126.0%	19.3	46.0	41.9%	SoCテスター世界首位
	テラダイン	15.5%	52.6%	9.3	37.9	24.5%	メモリ/SoCテスト装置大手
	ディスコ	1.7%	14.2%	8.4	36.8	22.9%	ダイシングソーで世界トップ
	TOWA	-18.9%	32.6%	2.1	18.5	11.4%	モールド装置・後工程の自動化
③材料・部材	信越化学工業	4.4%	-8.7%	2.0	16.8	11.7%	シリコンウェーハ・レジスト
	HOYA	-0.1%	20.6%	7.7	32.9	23.5%	EUVマスクブランクス・光学部材
	東京応化工業	-7.4%	67.7%	3.0	21.9	13.5%	フォトレジスト
④ファウンドリ	台湾積体電路製造(TSMC)	3.6%	45.7%	7.1	24.3	29.3%	世界最大の受託生産
	グローバルファウンドリーズ	17.5%	-10.3%	1.7	20.9	8.1%	米国中心のファウンドリ
	サムスン電子	5.5%	98.7%	1.5	9.7	15.8%	メモリ＋ロジック両輪
⑤IDM（垂直統合）	インテル	8.9%	90.8%	1.6	61.0	2.6%	CPU＋ファウンドリ化転換中
	テキサス・インスツルメンツ	15.3%	-4.5%	9.5	28.9	33.1%	アナログ半導体
	マイクロン・テクノロジー	-0.3%	182.7%	3.2	11.5	27.5%	DRAM・NAND
	SKハイニックス	-4.4%	228.3%	2.4	6.6	37.1%	DRAM・NAND
⑥ファブレス	エヌビディア	-6.2%	27.3%	15.9	24.0	66.3%	GPU・AIチップの中核
	ブロードコム	5.0%	52.8%	16.0	35.0	45.6%	通信・ネットワーク半導体
	アドバンスト・マイクロ・デバイセズ	-12.4%	72.1%	5.0	33.0	15.2%	CPU・GPU両輪
	クアルコム	6.9%	15.3%	7.4	14.6	50.8%	モバイルSoC・通信モデム
	マーベル・テクノロジー	1.2%	-24.4%	4.5	24.3	18.6%	データセンター・通信向け
⑦EDA / IP	シノプシス	16.1%	-6.9%	2.7	30.9	8.9%	設計支援ソフトEDA首位
	ケイデンス・デザイン・システムズ	3.8%	7.1%	13.8	40.5	34.1%	EDA2位・IPライセンス
	アーム・ホールディングス	-6.7%	4.0%	14.0	62.1	22.5%	CPUアーキテクチャ設計
⑨クラウド/AIプラットフォーマー	マイクロソフト	-5.7%	12.6%	7.2	27.8	26.1%	Azure、AIサーバー需要
	アルファベット	8.7%	61.2%	7.4	26.5	27.8%	TPUなど自社AIチップ開発
	アマゾン・ドット・コム	-2.9%	2.2%	5.1	24.1	21.1%	AWS用チップ設計・AI投資
	オラクル	-13.6%	13.8%	12.1	24.8	48.9%	自社SoC（Mシリーズ）開発
	メタ・プラットフォームズ	7.0%	9.0%	5.5	19.6	27.9%	自社AIチップ開発・HPC投資

出所：Bloomberg

ハイテク株(ナスダック 100)の中期見通し：AI 関連企業を中心に底堅く推移しよう

図表 13 は、WSTS が公表した 2026 年までの世界半導体出荷額見通しである。半年前と比べて、2025 年、2026 年のいずれも、それぞれ+10.8%、+31.0%上方修正されている、けん引役は、AI 半導体に関連する Logic 及び Memory である。WSTS 見通しをやや保守的に打ち出す傾向があり、来年にかけては一層の上昇余地があるとみられる。

もっとも、この保守的な予想を使用してもハイテク株は上昇余地が大きい。図表 15 に示した様に、半導体出荷額の前年比とナスダック 100 の EPS の前年比には正の相関関係がある。両者の関係からナスダック 100 の 2026 年の EPS を予想すると、なさ 100 は PER が変わらずとも、EPS(=ファンダメンタルズ)の改善のみで 32,000pt 程度に到達する可能性がある。

リスクは、AI バブル懸念である。筆者は現状を AI バブルではないと考えているが、投資家が懐疑的となれば、AI 投資のための社債発行等がネガティブと評され、利回りが上昇するなどして、企業は AI 投資に消極的となる可能性がある。

◎注意事項　お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

図表 13：WSTS による世界半導体出荷額見通し

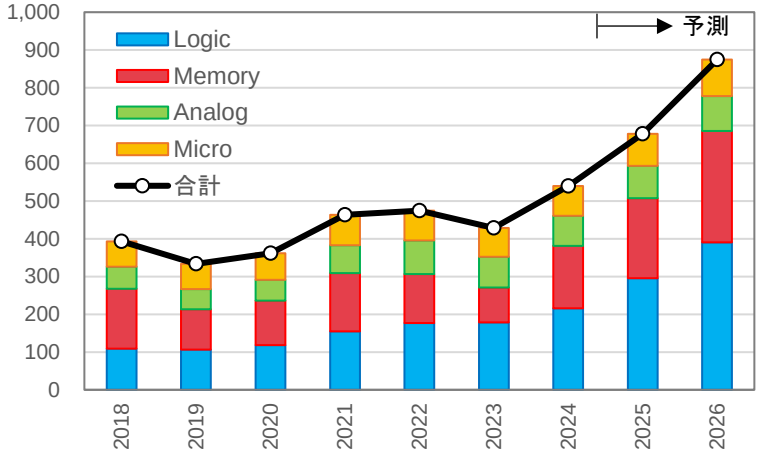
単位：10億ドル　　⇒予想

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
合計	393,288	333,354	361,226	463,001	474,401	428,442	539,505	677,852	874,291
Analog	58,785	53,939	55,658	74,105	88,983	81,225	79,588	85,552	91,988
Micro	67,233	66,440	69,678	80,221	79,073	76,340	78,633	84,839	96,620
Logic	109,303	106,535	118,408	154,837	176,578	178,589	215,768	295,892	390,863
Memory	157,967	106,440	117,482	153,838	129,767	92,288	165,516	211,568	294,821
前年比									
合計		-15.2%	8.4%	28.2%	2.5%	-9.7%	25.9%	25.6%	29.0%
Analog		-8.2%	3.2%	33.1%	20.1%	-8.7%	-2.0%	7.5%	7.5%
Micro		-1.2%	4.9%	15.1%	-1.4%	-3.5%	3.0%	7.9%	13.9%
Logic		-2.5%	11.1%	30.8%	14.0%	1.1%	20.8%	37.1%	32.1%
Memory		-32.6%	10.4%	30.9%	-15.6%	-28.9%	79.3%	27.8%	39.4%
前回予想からの修正率									
合計								10.8%	31.0%
Analog								4.8%	7.5%
Micro								9.0%	20.5%
Logic								10.7%	36.3%
Memory								14.5%	37.2%
ナスダック100									
株価	6,980	7,706	10,385	14,547	12,631	14,430	19,161	24,487	31,896
前年比		10.4%	34.8%	40.1%	-13.2%	14.2%	32.8%	27.8%	30.3%

出所：WSTS

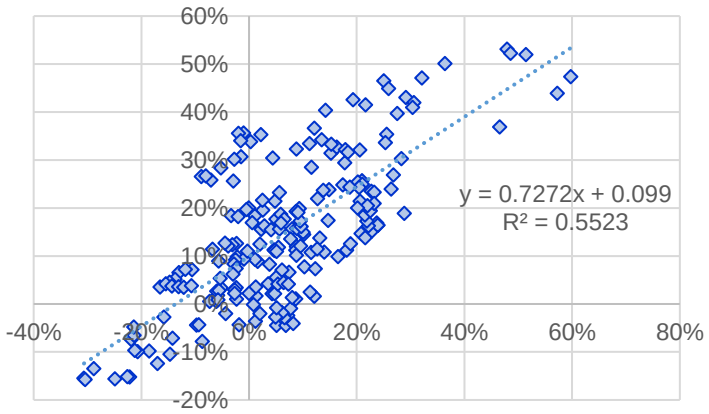
(10億ドル)

図表14：世界のIC 製品別市場予測



出所：WSTS

図表15：世界半導体出荷額(前年比)とナスダック100EPS(前年比)



出所：Bloomberg

◎注意事項　　お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

補足：AI バブル懸念に対する考え方の整理

AI ブームには懐疑的な声も多く、循環取引や過剰投資懸念が指摘されており、ハイテク企業の株価はボラタイルな値動きをしている。しかし、過去の技術革新が生じた際にブームが持続した期間を考えると AI ブームはまだ持続する公算が大きい。また、バブルを指摘する意見は生成 AI 領域に終始している印象だが、フィジカル AI を始めとして、AI の応用可能性は多岐に渡り、新たな需要も創出されているため、現時点でバブルと判断することは時期尚早であると考えている。

図表 16 は、19 世紀以降の主要インフラ産業について、どの様な末路を辿ったか整理したものである。各産業に共通するのは、①技術革新による需要創出、②投資ラッシュ、③供給過剰局面、④淘汰と寡占化、⑤長期安定期への移行というサイクルである。ただし、このサイクルが現れる速度や揺り戻しの大きさは、産業が依拠する基盤の性質(物理インフラか、ソフトウェア中心か、規制産業か等)によって大きく異なる。

鉄道や鉄鋼などの物理インフラは、資本集約度が高く、供給調整に時間がかかるため、投資過剰が顕在化するまでの期間が長い。一方、通信機器やインターネット企業は、技術陳腐化が早く、期待が先行しやすいため、投資拡大期から調整局面までのサイクルが短期化する。この点は、2000 年の通信バブル崩壊や Web1.0 バブルで顕著である。

これに対し、AI 関連産業は、従来型の IT 投資と同列には扱えない。AI 市場は、LLM、ロボティクス、自動運転、産業 AI、動画生成 AI など複数の需要源が存在し、計算需要の拡大メカニズムも、従来のソフトウェア産業より非連続性が大きい。GPU・データセンター投資がハイパースケーラーに集中するという構造自体はクラウド産業に似るが、需要の多極化によって単一用途の飽和が即座に全体の縮小につながる構造ではない点が特徴的である。

AI については、現時点では依然として投資拡大期に位置し、産業構造が定常状態に収束するまでの時間軸は読みづらい。特にロボティクスや自動運転などの領域は、実装フェーズが 2020 年代後半まで続くと見られるため、現行の GPU 投資拡大を単純にクラウド投資サイクルと同一視することには無理がある。

以上の比較により、AI 産業に対する「バブル論」の一部は、需要源を LLM のみに限定し、その多層構造を適切に評価できていないことが確認できる。一方で、ハードウェア投資が短期的に過熱している可能性は否定できず、今後は「過剰投資の顕在化」と「新規需要の開拓」のどちらが上回るかが、企業収益および産業全体の成長速度を規定すると考えられる。加えて、生成領域に限っても、バブルであるか否かを短期的に判定することは難しく、2026 年の相場見通しを語る上での重要性は低いと考えている。

◎注意事項　お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

図表 16：過去の技術革新と主要企業

期間	産業カテゴリ	注目の契機	代表企業	株価推移
1840–1870	鉄道	大陸横断鉄道完成(1869年) 蒸気機関の進化と投資ラッシュ	UnionPacific、CentralPacific	初期投資ブームで急騰→過剰供給とパニックで大暴落(1873年恐慌)→統合後、長期安定成長(インフラ化)
1950–1990	鉄鋼(高炉技術進化)	戦後復興・ベビーブーム需要 連続鋳造法普及(1960s) グローバル輸出拡大	USSteel、NipponSteel、POSCO、Baosteel	戦後高度成長期に急騰(USSteel株価数倍)→1970sオイルショックで調整→1980s再上昇も競争激化で周期的下振れ(戦略的保護政策で安定、2025年USSteel買収合意で国家安全保障強調)
1980–2000	半導体(汎用→PC→モバイル)	ムーアの法則の加速 PC普及(1980s)	Intel、TSMC、NVIDIA、AMD	複数サイクルで急成長(1990s急騰)→ドットコム調整で一時暴落(2000年)→モバイル需要で再上昇、勝者(NVIDIA等)が長期支配(2025年AIエッジ需要でNVDA+150%)
1990–2002	通信インフラ(光ファイバー・ネットワーク)	インターネット普及 ISP拡大 光ファイバー投資ブーム	Cisco、Nortel、Lucent	1990s後半に急騰(Cisco株価数百倍)→バブル崩壊で大暴落(2000–2002年)、多く破綻→生存者(Cisco)は安定回復
1995–2005	インターネット(Web1.0)	eコマース・検索エンジンの出現 ブラウザ戦争(Netscape上場1995年)	Amazon、Google、eBay、Yahoo	期待先行で高騰(1990s後半)→ドットコムバブル崩壊で淘汰(2000年)→勝者(Amazon、Google)は爆発的成長継続、時価総額世界トップへ
2005–2015	モバイル/アプリエコノミー	iPhone発売(2007年) アプリストアの普及 4Gネットワーク展開	Apple、Google、Qualcomm	初期急騰(Apple株価10倍超)→競争激化で調整→プラットフォーム勝者(Apple、Google)が長期支配、関連ハード(Qualcomm)も安定成長
2010–2024	クラウドコンピューティング(IaaS/PaaS)	AWS商用成功(2006年、黒字化2015年頃) 企業DX加速	Amazon、Microsoft、Google	巨額投資期の緩やか上昇→スケールメリットで急加速(2010s後半)→安定高収益化、親会社株(MSFT、AMZN)が長期急騰(2025年AI需要で継続)
2020–	AI(生成AI/LLMブーム)	GPT-3公開(2020年) ChatGPT爆発的普及(2022年) Transformer/マルチモーダル進化	OpenAI、NVIDIA、Meta、Google	PoC投資ラッシュからGPU/クラウド需要で急騰(NVIDIA株価数倍、2023–2025)→マネタイズ不透明のボラ高も、AgenticAIシフトで継続上昇→勝者総取りの可能性高(BigTech支配)
2023–	AI(ロボティクス/自動運転：物理AI)	TeslaOptimusデモ(2023年) Waymo商用無人運転拡大 FSD進展 NVIDIARobotBrain(2025年)	Tesla、Alphabet、BostonDynamics、NVIDIA	期待先行で変動大(Tesla株価ボラ高、2025年+80%)→実証失敗リスクで調整も、市場規模$5.23B(2025年)・CAGR32%で加速→成功シナリオで爆発成長(インフラ化、2030年$50B超？)
2024–	AI (マルチモーダル/エージェント/ワールドモデル)	Sora動画生成(2024年) Copilot企業実装 RAG/エージェントツール普及 ワールドモデル商用化(2025年：NVIDIACosmos等)	Microsoft、Google、OpenAI、Adobe、Meta、NVIDIA	生成ツール需要でハード/クラウド株再上昇→企業定常化で安定(MSFT等)→過剰投資リスクで調整も、AgenticAI/Embodied統合で$500B超市場化の可能性(模擬環境トレーニングで物理AI強化)

出所：各種報道より、りそなホールディングス作成

◎注意事項　お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

■バックナンバー(直近発行レポート 50 本)

No	発行日	テーマ	タイトル
257	2025/8/28	半導体，日本株，米国株	エヌビディアの決算 FY2026 2Q
258	2025/8/28	日本株	日本株需給(8 月 18 日～8 月 22 日)
259	2025/8/28	日本株	4-6 月期決算と年末までの見通し
260	2025/9/3	日本株	25 年 8 月ユーロ圏物価動向
261	2025/9/3	米国株，米国経済	8 月 ISM 製造業景況感指数と米国株見通し
262	2025/9/5	日本株	日本株需給(8 月 25 日～8 月 29 日)
263	2025/9/8	米国経済	8 月雇用統計
264	2025/9/10	日本株	自民党総裁選と日本株見通し
265	2025/9/12	日本株	日本株需給(9 月 1 日～9 月 5 日)
266	2025/9/12	米国経済	8 月米 CPI
267	2025/9/12	半導体，日本株，米国株	9 月半導体市場及びハイテク株動向
268	2025/9/12	欧州経済	ECB<欧州中央銀行>理事会
269	2025/9/18	米経済，米金利，米国株	9 月 FOMC とマーケットへの影響
270	2025/9/18	豪州経済	25 年 9 月豪州概況
271	2025/9/19	日本株	ここもとの日本株上昇相場についての考察～日経平均 4 万 5000 円は妥当か
272	2025/9/22	日本株	日本株需給(9 月 8 日～9 月 12 日)
273	2025/9/29	日本株	日本株需給(9 月 16 日～9 月 19 日)
274	2025/9/30	コモディティ	25 年 8・9 月 WTI 原油先物価格
275	2025/10/1	日本株	日本株 9 月レビューと 10 月見通し
276	2025/10/2	欧州経済	25 年 9 月ユーロ圏物価動向
277	2025/10/2	米国株，米国経済	9 月 ISM 製造業景況感指数と米国株見通し
278	2025/10/3	日本株	日本株需給(9 月 22 日～9 月 26 日)
279	2025/10/6	日本株，ドル円	高市氏勝利とマーケットへの影響
280	2025/10/10	半導体，日本株，米国株	10 月半導体市場及びハイテク株動向
281	2025/10/10	日本株	日本株需給(9 月 29 日～10 月 3 日)
282	2025/10/16	豪州経済	25 年 10 月豪州概況
283	2025/10/20	日本株	日本株需給(10 月 6 日～10 月 10 日)
284	2025/10/24	日本株	日本株需給(10 月 14 日～10 月 17 日)
285	2025/10/30	米国経済	10 月 FOMC とマーケット環境の整理
286	2025/10/31	欧州経済	ECB<欧州中央銀行>理事会
287	2025/10/31	日本株	日本株需給(10 月 20 日～10 月 24 日)
288	2025/10/31	欧州経済	25 年第 3 四半期ユーロ圏 GDP 統計
289	2025/11/4	欧州経済	25 年 10 月ユーロ圏物価動向
290	2025/11/4	日本株	日本株 10 月レビューと 11 月見通し
291	2025/11/5	米国株，米国経済	11 月 ISM 製造業景況感指数と米国株見通し
292	2025/11/11	日本株	日本株需給(10 月 27 日～10 月 31 日)
293	2025/11/14	日本株	日本株需給(11 月 4 日～11 月 7 日)
294	2025/11/14	半導体，日本株，米国株	11 月半導体市場及びハイテク株動向
295	2025/11/14	豪州経済	11 月豪州概況
296	2025/11/20	半導体，日本株，米国株	エヌビディアの決算 FY2026 3Q
297	2025/11/21	米国経済	9 月米雇用統計
298	2025/11/21	日本株	日本株需給(11 月 10 日～11 月 14 日)
299	2025/11/25	欧州経済	25 年第 3 四半期ユーロ圏賃金動向
300	2025/11/26	米国経済	米国消費関連指標とマーケット見通し
301	2025/11/28	コモディティ	25 年 10・11 月 WTI 原油先物価格
302	2025/11/28	日本株	7-9 月期決算集計と日本株ストラテジー
303	2025/12/1	日本株	日本株需給(11 月 17 日～11 月 21 日)
304	2025/12/1	日本株	日本株 11 月レビューと 12 月見通し
305	2025/12/3	欧州経済	25 年 11 月ユーロ圏物価動向
306	2025/12/5	日本株	日本株需給(11 月 25 日～11 月 28 日)と Weekly データ集

◎注意事項　お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。